

ぬまた 市議会だより

第57号

3月定例会

令和2年
5月1日

3つの密を避けましょう!

新型コロナウイルスの集団発生防止に
ご協力をおねがいします

①換気の悪い
密閉空間



②多数が集まる
密集場所



③間近で会話や
発声をする
密接場面



3つの条件がそろった場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!



※3つの条件のほか、**共同で使う物品**
には消毒などを行ってください。

新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。

日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。

首相官邸
Prime Minister's Office of Japan

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

厚労省 コロナ 検索



新型コロナウイルス感染症から大切な命を守るために



沼田市議会HP



沼田市HP
新型コロナウイルス感染症
関連情報

医療の現場をはじめ、感染拡大防止にご尽力いただいている市民の皆様にご心から感謝申し上げます。

沼田市内で新型コロナウイルスの感染が確認されました。食料品や医薬品の購入、通院など生活の維持に必要な行動は制限されておりませんが、なるべく外出を控えることが、ご自身やご家族を守ることに繋がります。

沼田市議会として感染拡大防止に努め、市民の不安を取り除き、健康で安心した社会生活が送れるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

沼田市議会議員一同

主な内容

- ・P2～3 3月定例会ほか
- ・P4～6 令和2年度予算
- ・P7～13 一般質問
- ・P14 議会改革経過報告

3月 定例会

3月定例会は、2月27日に開会し、3月23日までの26日間、令和元年度補正予算、条例の改正、令和2年度当初予算など計43件と、請願3件を審議。追加議案として、新型コロナウイルス対策に関する補正予算も審議されました。

一般質問は13人の議員が行い、市当局と活発な議論を展開しました。

新型コロナウイルス対策で緊急補正予算

新型コロナウイルス感染症対策で実施した小学校の臨時休校に伴い、午前中から開所する学童クラブの経費や保育所等における感染防止用の備品等を購入するため、1,839万8,000円を追加しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大によって影響を受けている事業者に対して支援を行うため、中小企業経営振興資金利子補給金の期間を2年間延長、限度額の上限を全額まで引き上げました。

かからない!!
うつさない!!



全員協議会で今後の新型コロナウイルス対策を確認

本県で、3月7日に初の新型コロナウイルス感染者が確認され、今後、中・長期化するおそれがあることから、本市の対策の状況や今後の方針等について、市議会として緊急に把握する必要性が高いと判断し、全員協議会を開催しました。

市長、教育長、各部長からの説明後、質疑を行い、今後の市の方針や対策、周知などの確認を行いました。

主な発言要旨

- 休校への柔軟な対応と周知を
- 沼田市独自の中小、零細企業、商店等に対する財政支援を
- 医療機関との連携を密に
- マスク不足の解消を
- 市役所の危機管理体制の確立
- 企業への損失補填は急務
- 学童クラブの運営

令和元年度補正予算

国県支出金の確定又は制度改正等により増減を生じるもの、特別な理由により緊急に対応する必要があるもの、事業費の確定等による歳入歳出予算の整理等の補正予算です。

主な内容は、庁舎等複合施設管理事業の追加、森林整備事業の追加、中心市街地土地地区画整理事業の減額、小中学校のコンピュータ管理事業の追加などです。

補正予算に反対（一部抜粋）

テラス沼田1階に多目的ホールを整備するのに3,800万円で大丈夫なのか。大金、税金を投じるのが適切なのか。判断できません。議会への丁寧な説明を行った後の補正予算計上を求めます。

利根沼田の連携に向けて

中心市宣言

現在、沼田市は、利根沼田地域定住自立圏の形成に向けて準備を進めており、令和2年度から具体的な作業に入るため、市長が中心市宣言を行いました。

中心市宣言（要旨）

本市と片品村、川場村、昭和村及びみなかみ町の1市1町3村で形成する利根沼田圏域は、歴史的、地形的につながりが深く、医療、福祉、教育、環境、観光など、幅広い分野において、相互に連携、協力しながら地域の発展に努めています。

将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていくためには、各自治体が持つ都市機能や、地域資源を有効に活用するとともに、様々な課題に対して、相互に連携し、圏域全体で住民生活に必要な機能を確保・充実していくことが、これまで以上に重要となっております。

沼田市は、利根沼田地域定住自立圏の形成を進め、「中心市」として、生活圏や経済圏をともにする利根沼田圏域の連携と、協力関係の更なる強化に努めるとともに、地域力を高め、住民が安心して暮らし続けられる地域社会の形成と、魅力ある地域づくり、積極的に取り組んでいくことを、中心市宣言します。

市役所各課の業務内容が変更

沼田市部設置条例の一部を改正し、各課の業務内容を一部変更しました。

生活課は市民協働課に、街なか対策課は都市計画課に業務を引き継ぎ廃止となります。
変更になる課

- 防災対策課→地域安全課
- 企画課→企画政策課
- 生活課→市民協働課
- 高齢福祉課→介護高齢課
- 街なか対策課→廃止
- コミュニティ・区長関係
総務課→市民協働課
- 交通安全対策
生活課→地域安全課
- 難視聴対策
生活課→企画政策課
- 公共交通対策
生活課→企画政策課
- キャラクターの活用・運用、フィルムコミッション
企画課→観光交流課
- 人権同和行政
社会福祉課→市民協働課
- 一般介護予防
高齢福祉課→健康課

常任委員会

3件の請願を趣旨採択

総務文教常任委員会、民生福祉常任委員会で3件の請願の審査を行いました。委員から様々な意見が出され、国の動向などを注視し、今後研究を続けていくことなどが確認されました。審査結果はいずれも、趣旨採択となりました。

◎請願

「核兵器の禁止条約の署名・批准」を求める意見書提出を求める請願書（総務文教常任委員会）
若い人も高齢者も安心できる全額国庫負担の最低保障年金制度創設を政府に求める請願（民生福祉常任委員会）
年金支給の隔月支給を毎月支給に改める請願（民生福祉常任委員会）

人事案件

固定資産評価審査委員の選任（同意）

- 阿形 登氏（再任）
- 須田 重一（再任）
- 津久井 正人（再任）
- 小林 守

新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る取り組みについて、市議会として統一した方針を決定しました。

議会は、非常時においても機能停止することなく、有効な議決ができる機能を維持しなければならぬため、本会議の開催を最優先として活動します。

議員は、自らの新型コロナウイルス感染症への感染により本会議の開催ができなくなるリスクがあることを十分認識し、公私ともに注意して行動します。

沼田市議会の取り組み

- ◎会議開催時は、約1時間に1回以上、5分以上の換気を行う。
- ◎なるべく広い会議室を使用し、発言時もマスクを着用する。
- ◎消毒液を設置する。
- ◎共用物品は、利用前及び利用後に消毒を行う。

※本会議は公開しますが、なるべくインターネット中継をご覧ください。

みんなで

感染拡大を防ぎましょう!!

令和2年第1回3月定例会賛否状況（賛否の分かれた議案のみ掲載）

種別	番号	議案等名	結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
				星野妙子	金子隆巳	高柳勝巳	三ツ石岩男	山宮敏夫	茂木清七	永井敏博	桑原敏彦	中村浩二	井上弘	大東宣之	井之川博幸	野村洋一（議長）	島田康弘	大島崇行	高山敏也	戸部博	久保健二	星野稔	星野佐善太
議案	第22号	令和元年度沼田市一般会計補正予算（第7号）	原案可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	第32号	令和2年度沼田市一般会計予算	原案可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
	第33号	令和2年度沼田市国民健康保険特別会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
	第34号	令和2年度沼田市後期高齢者医療特別会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
	第35号	令和2年度沼田市介護保険特別会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
	第36号	令和2年度沼田市簡易水道事業特別会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
	第38号	令和2年度沼田市水道事業会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
	第39号	令和2年度沼田市下水道事業会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○

■各記号の見方 ○…賛成の者、×…賛成でない者、-…欠席または退席

予算審査特別委員会

令和2年度一般会計予算22.1億円

ソフト事業充実に3600万円

ハードから
ソフトへ

高齢者バス利用促進

65歳以上の高齢者への敬老バスカード助成にかわり、市内の路線バスが一定区間乗り放題となる高齢者バス定期券を試験導入し、6か月間の社会実験を実施します。



令和2年度予算関連議案12件を予算審査特別委員会で4日間にわたり審査を行いました。延べ30人が、177件の質疑を行い、いずれも原案どおり可決しました。新年度予算では、「ハードからソフトへ」を念頭に、スマートフォンに防災行政無線情報を自動転送する**地域防災コミュニケーションシステム整備**、市内の路線バスが一定区間乗り放題となる**高齢者バス定期券を試験導入する高齢者バス利用促進事業**、地産地消の木のおもちゃを赤ちゃんに贈る**ウッズスタート事業**、将来、市内に定住・就労する学生を対象に月10万円を給付する**ふるさとぬまた未来創造奨学金**などの事業が計上されました。委員会では、新規事業や生活に密接した事業など、重要施策に関するものを中心に活発に質疑が行われました。

保健・医療・福祉

Q子ども家庭総合支援拠点の内容と家庭児童相談事業から強化された点は。

A子どもに関する相談の総合窓口として、より専門的な相談や訪問により、総合的かつ継続的に支援を行います。新たに雇用する社会福祉士を中心とした総合窓口として、関係機関との円滑な連携・協力を強化していきます。



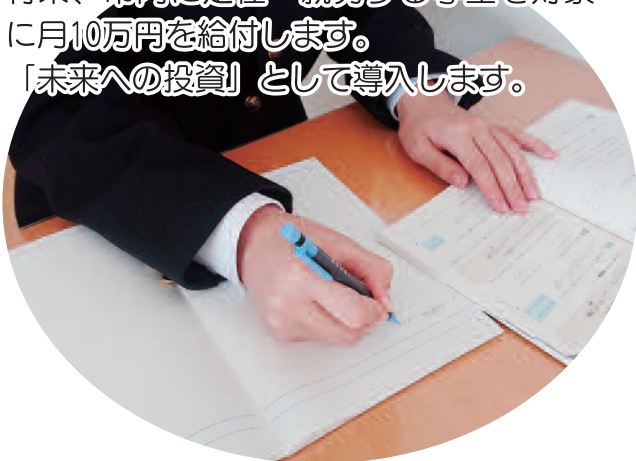
子どもに関する総合相談窓口
(テラス沼田3階子ども課)

Qがん患者ウィッグ等購入費助成の対象者は何人程度見込んでいるのか。

Aがん治療に伴う外見の悩みを抱えているがん患者に対し、外見の変化を補うためのウィッグまたは乳房補整具の購入費用を助成するもので、ウィッグ、乳房補整具をそれぞれ10人分ずつ見込んでいます。

ふるさとめまた未来創造奨学金

将来、市内に定住・就労する学生を対象に月10万円を給付します。「未来への投資」として導入します。



ウッズスタート

沼田の木工職人が沼田産木材で制作したオリジナルデザインの木のおもちゃを赤ちゃんに贈ります。

教育・文化

Q 沼田城遺跡発掘調査事業の新年度の取り組みは。

A 沼田公園内のテニスコート部分の一部を発掘調査する計画です。本丸の石垣の存在や堀の幅や深さなどを確認することができると想定しています。

他には、本丸北側の武家屋敷があつた保科曲輪の北側斜面の測量調査の実施、発掘調査の出土資料である瓦などの整理調査を計画しています。

Q 沼田給食センターの事業内容と衛生管理は。

A 8月から稼働となる新学校給食センターでは1日当たり最大4000食の給食を提供し、玄米を自前の精米機器により精米し炊飯することで、おいしい米飯給食を提供する予定です。衛生管理については、文部科学省の「学校給食施設衛生管理基準」を遵守し、安心・安全でおいしい給食の提供に努めます。

自然環境・生活環境

Q 小水力発電施設整備事業の概要は。

A 利根町追貝平土地改良区の用水施設を使用し、新たに導水管を布設、平川第一砂防堰堤下流に発電所を建設します。平成30年度に実施した基本設計に基づき、最大使用水量毎秒1・35立方メートル、最大有効落差約51m、最大出力526キロワット、年間約2,000メガワットアワーの発電を見込んでいます。



小水力発電施設建設予定地
(利根町平川地区)

Q 森林整備事業のウッズスタート事業の内容は。

A 本市で生まれた赤ちゃんに地産地消の木材玩具を誕生祝い品としてプレゼントします。玩具制作業務と、製品の安全性等を検査するための業者委託を実施する予定です。

Q 防災システム整備事業の地域防災コミュニケーションシステムの内容は。

A 防災情報伝達手段の多重化・多様化を図るため、スマートフォンに防災行政無線情報を自動転送するシステムの導入を予定しています。



工事中の新学校給食センター

都市基盤

Q路線バス対策事業のデマンド運行導入検討業務の内容は。

A本市で運行を委託している10路線のデマンド運行等を目指し、各路線の実情に応じたメリット、デメリットを整理し、利便性の高い運行についての検討業務を公共交通に精通した業者に委託します。

また、バス、タクシーなどの運行に直接携わる方と行政職員等で協議組織を立ち上げ、専門アドバイザーを加えて、本市におけるデマンド運行等の検討をしたいと考えています。

Q橋りょう補修事業の事業内容は。

A令和2年度の事業は、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、市が管理する橋長15m以上の道路橋70橋、水路橋1橋のうち、利根町老神の内楽橋の下部工について、交通の安全確保の観点から補修工事を実施します。



工事予定の内楽橋(利根町老神地区)

地域経済

Q観光宣伝事業の新規事業の取り組みは。

A自治体国際化協会が募集した食を通じた地域のプロモーション・交流事業に選定され海外で影響力のあるインフルエンサーに沼田市各観光素材を体験いただき、SNSやブログ等で沼田市の魅力を発信していただく事業です。広域連携による取り組みを推奨しているため、みなかみ町、高山村と11月に実施予定です。

Q有害鳥獣の現状と対策事業の効果の検証、新年度の事業内容は。

A有害鳥獣の捕獲頭数は年々増加する傾向にあります。令和元年度は、豚コレラの予防対策として、年間を通じて有害鳥獣対象とした野生イノシシの捕獲強化を進めてきました。新年度も、有害鳥獣捕獲に対する支援を行うほか、専門知識を有する業者との業務委託を締結し有害鳥獣被害の減少に向け取り組みたいと考えています。



鳥獣害対策の柵を設置(池田地区)

予算に反対 (一部抜粋)

○これ以上の借入れは抑えて、償還をより進めて、いつまでにいくらまで市債残高を減らしていくのか、わかりやすく、丁寧に市民に説明していく必要があると考えます。

○公共施設の維持と施設管理は、大きな課題であり、市民の理解を得る丁寧な説明が必要です。中央公民館廃止は、納得を得られているとはいえず、引き続き利用者への説明が必要です。

討論

予算に賛成 (一部抜粋)

○量から質への転換も認められ、おおむねよくとして認められます。「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち」を実現するため、当局一丸となって取り組むことを期待します。

○少子化・人口減少・超高齢化へ向かう当市にとり、持続可能な社会を目指す予算案と評価します。市民と充分にコミュニケーションを交わし、予算執行に臨んでください。

市政を問う!!

市政を問う!

一般質問

市のさまざまな課題等について、議員が提言も含めて市に考えを問うのが「一般質問」。質問内容は、議案とは関係なく各議員が自由に決めます。ここでは、各議員が自ら編集したダイジェスト版で質問内容をお伝えします。QRコードからは、各議員の一般質問録画映像がご覧いただけます。

永井 敏博	中央公民館の管理、機能別消防団員制度導入
戸部 博	沼田市の都市間交流の推進と森林管理
桑原 敏彦	外国人労働者の活躍を活かしたまちづくり
山宮 敏夫	防災対策、企業誘致、歴史的伝説・伝承
茂木 清七	災害時の支援、耕作放棄地の対策
大東 宣之	公共施設管理計画、市民協働、平和行政
高柳 勝巳	中心市街地再生 市民協働のまちづくり
金子 浩隆	人口減少時代の行財政改革
星野佐善太	昭和・平成の市町村合併の課題と検証
星野 稔	「持続可能な地域」を目指して
井上 弘	行政と地域の協働のまちづくりに向けて
星野 妙子	「奈良古墳群」群馬県史跡に指定される
井之川博幸	感染症の影響から市民生活と市内企業を守れ

スマホから議会を見よう!
議会インターネット中継
 文章では伝わらない、生の議会を映像でご覧ください。



◀議会中継
 会議名や議員名を選んで視聴できます。

中央公民館の管理、機能別消防団員制度導入

永井 敏博



◎中央公民館の管理と利便性の確保について教育長に伺います。

▲公共施設等総合管理計画に基づく第1期アクションプランにおいて、中央公民館は、令和3年度までに廃止、除却、機能分散を行う方針が示されています。市民の利便性の確保については、まず、中央公民館の機能移転は、社会教育委員の会議、公民館利用者等の会、文化協会などの関係団体をはじめとした皆様のご意見を伺い、市の中心部にあるテラス沼田、保健福祉センターのほか、白沢支所などを代替施設として検討したいと考えています。

また、機能移転に伴う利便性の確保については、現在利用されている方などの意見を参考にさせていただき検討を行うことで、市民の皆様に取り添った生涯学習の推進を図りたいと考えています。

◎機能別消防団員制度の導入について伺います。



雪の中の歳末特別警戒（第3分団）

▲消防団員への負担は増加傾向にあり、また、団員の就業状況により、火災等が発生した際の参集率の低下も危惧されつつあります。このような状況をふまえ、地域と消防団の負担を強いることなく、消防力を向上させるため、機能別消防団員制度の導入を含め、協議を進めています。

※その他の質問

- ・沼田市施設包括管理について
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

一般質問

沼田市の都市間交流の推進と森林管理

戸部 博



Q 姉妹都市・静岡県下田市とのさらなる経済交流の推進を目指す取り組みについて伺います。

A 下田黒船祭や農業まつり、市内各種イベント等における農産物・特産品の展示即売などを通じて、友好関係を深めていきたいと考えています。

Q 新宿区との今後の交流の推進について伺います。

A 「新宿の森・沼田」の活動を中心に、新宿区内で開催されるイベントへの出展などにより、交流を深めていきたいと考えています。

Q 森林環境譲与税をどのような事業に活用するのか伺います。

A 森林の所有者リストを作成し、森林経営管理の意向調査に着手したほか、本市で誕生した子どもに誕生日品として「木のおもちゃ」をプレゼントすることで、木材の良さを認識する心と森林や自然を大切にすることを培う「ウッドスタート事業」を実施してまいります。



新宿の森・沼田

Q 「皆伐・再造林一貫作業」による作業の効率化と管理コストの削減について伺います。

A 伐採時期を迎える人工林は、伐採及び再造林により森林の更新を図り、森林の持つ多面的な公益機能を維持しながら、次の世代へと循環利用を図っていくことが重要であると認識しており、皆伐・再造林コストの低減に向けた取り組みについても、今後研究したいと考えています。

※その他の質問

・埼玉県鴻巣市、台湾南投県魚池郷との交流
・白沢町の「新宿の森」に隣接する市有林の伐採、地元インフラ整備等への還元など

外国人労働者の活躍を活かしたまちづくり

桑原 敏彦



Q 沼田市の活性化に、外国人労働者の活躍を活かしたまちづくりの実現は必要と考えます。外国人労働者の受入れセミナー等の開催促進について伺います。

A 群馬労働局及び県では、事業主等を対象に外国人労働者の適正な管理と労働条件の確保に関するセミナー等を開催しています。関係機関と連携を図りながら、情報共有等を行っていききたいと考えています。

Q 外国人労働者受入れの相談窓口開設について伺います。

A 「ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター」をはじめ、前橋市ほか6市1町に設置されています。ハローワークでは、事業主向けの相談窓口があり、そのうち4か所が外国語対応です。ハローワーク等と連携を図っていききたいと考えています。

Q 外国人労働者が地域に参画し、住民と共生していける社会をつくり、外国人労働者に選ばれたまちづくりが必要と考えます。

外国人労働者の地域への参画と支援について伺います。

A 地方創生交付金を活用した地域の受け入れ環境整備等の支援措置などが検討されているので、本市も関係機関と連携し、他自治体の取り組みや、国・県等の動向を注視しながら、検討していきたいと考えています。

Q 外国人労働者の定住支援について伺います。

A 労働環境の整備だけでなく、地域に溶け込めるような支援を行うことにより、安心した暮らしやモチベーションの高い仕事につながることで、外国人労働者にとっても住みたい町に発展していくと考えていますので、その方策について検討していきたいと考えています。



市内で働く外国人労働者

市政を問う!!

防災対策、企業誘致、歴史的伝説・伝承

山宮 敏夫



Q避難情報の伝達方法について、

台風19号の風水害をふまえて改善点はあったのか伺います。

A避難情報については、迅速で丁寧な情報を伝達する必要性を再認識しましたので、情報伝達の多重化・多様化の検討を進めていきたいと考えています。

Q首都圏直下、内陸、火山性、南海トラフなどの大震災のシミュレーションと対策について、検討や対策は行っているのか伺います。

A震度5弱以上の揺れを観測した場合には、直ちに災害対策本部を設置し、応急活動体制の確立を行うこととしています。

Q災害時の緊急車両の通行について伺います。

A国交省や県などの道路管理者や、警察、消防、自衛隊などの関係機関と緊密な連携を図ってきたいと考えています。

Q誘致先の企業について、誘致の計画について伺います。

A企業誘致優遇制度の活用をは



沼田公園の沼田城本丸跡碑

じめ、企業訪問による情報交換や県との連携による誘致活動を継続したいと考えています。

Q歴史的伝説伝承について、言い伝えの掘り起こしと取りまとめについて伺います。

A意見を伺いながら、物語性のある観光ツールとして、研究していきたいと考えています。

Q沼田城の伝説伝承の実現化について伺います。

A本市の観光素材として育んでいくのか、さらに研究していきたいと思えます。

災害時の支援、耕作放棄地の対策

茂木 清七



Q海外販路開拓支援事業について伺います。

A中国成都市では、利根実業高校生のそば打ち実演等を行いました。ベトナムホーチミン市は、新型コロナウイルスの影響で縮小しましたが、ASEAN諸国の中でも有望な市場となると伺いました。

Q東京オリンピック・パラリンピック、群馬DCに向けた観光誘客とインバウンドの推進について伺います。

A東京から近距離の本市を選んだだけのように、SNSなどで効果的な情報発信に努めていきます。また、駅前バス乗り場アーケード改修、観光看板の整備、二次交通の利便性等、様々な準備を行っています。

Q安心安全に暮らせるまちづくりについて、災害時の他地域との連携について伺います。

A市民の安心安全のため、相互援助に関する協定締結など、他地域との連携強化に努めていき

たいと考えています。

Q消防団員確保について伺います。

A機能別消防団制度の導入も含め、消防団員確保に努めていきたいと考えています。

Q耕作放棄地の有効活用と今後の計画について伺います。

A今後も遊休農地の増加が懸念されます。再生可能か、不可能か、農地利用状況を調査、確認し、規模拡大を考えている農業者とのマッチングを行い、各種補助事業を活用し、再生活動に取り組みたいと考えています。

Q農業委員会と市との連携について伺います。

A新たな耕作放棄地の発生抑制に努め、農家への農地集積等、農業委員会と連携していただきたいと考えています。



昭和村と災害時の協定を締結

一般質問

公共施設管理計画、市民協働、平和行政

大東 宣之



Q公共施設等総合管理計画について、市民への説明はどのようにされているのか伺います。

A沼田市公共施設等総合管理計画については、計画の概要版を全戸配布し、説明会を実施するなど計画の周知、理解に努めました。第1期アクションプランについても、区長説明会や市政懇談会などにより市民の皆様へ直接説明を行うとともに、ホームページや広報ぬまたなどにより情報提供を行うなど、今後についても引き続き皆様のご理解をいただけるよう努めていきたいと考えています。

Q中央公民館の廃止についての利用者等への説明はどのようにされ、活動の場の確保はどのようにされるのか伺います。

A2月13日、市ホームページを更新し、市民の皆様へ情報を公開し、また「広報ぬまた3月号」にも掲載し、周知を重ねたところです。活動の場につきましては、生活文化の振興、社会福祉

の増進に寄与するよう、調整を行っているところです。

Q地域づくりと市民協働にどのように取り組み、担い手を育成するのか伺います。

A地域づくりには、そこに住む皆さんが力を合わせて取り組むことが必要であり、また、それぞれの地域を熟知した担い手が不可欠であると考えています。

Q被爆2世木（被爆アオギリ2世と被爆クスノキ2世）の植樹についてどのように考え、対応するのか伺います。

A本年は、被爆75年の節目の年であり、市民が平和の尊さと戦争の悲惨さを考えるきっかけとすべく、両苗木を令和2年度に植樹する予定です。



被爆二世木

中心市街地再生 市民協働のまちづくり

高柳 勝巳



Q国土交通省の「居心地が良く歩きたくなる街なか」からはじまる都市の再生を、本市でどう反映していくのか伺います。

A土地区画整理事業によるインフラ整備として、広く歩きやすい歩道、電線類の地中化、緑地や広場の整備を進めているところであり、今後、明るく開かれた街ができ、多様な人々の交流やオープンスペースの活用等が図られることによって、同様の効果があると考えています。

Qモノを売る商店街から地域課題解決や市民生活を応援する商店街への転換について伺います。

A社会情勢の変化の中、役割や形態の転換は、必要なことと感じています。商店街の再構築と個店の再建を考えていく中で、商業者同士の連携が重要と考えています。

Q市民協働を強化していくためには、基本的なスタンスや方向性、重要な事業や場面では、執行部内における合意形成と、市

民とのコンセンサスを図るためのプロセスが最も重要です。住民との信頼関係の構築なくして真の市民協働の達成など、到底達成し得ないと考えます。

市民理解の深化に向け「説得から納得」を重視した執行体制整備と基本姿勢について伺います。

A市民協働の具現化に向け、市民と行政が対等なパートナーとして地域課題の情報共有などに取り組み、行政と地域が一体となったまちづくりを推進していきたいと考えています。地域コミュニティの活性化を図るため、組織機構改革により新たに市民協働課を設置します。

上之町に集約される
歴史文化施設

人口減少時代の行財政改革

金子 浩隆



昭和・平成の市町村合併の課題と検証

星野 佐善太



【Q】県統計局発表の沼田市の人口は45,514人(令和2年2月1日現在)。1年で801人も減り、人口減少にまったく歯止めがかかりません。一方、市債残高は増え続け、市民一人当たりの借金は途方もなく増えています。平成30年度決算の沼田市民一人当たりの借金は約55万5,000円で、県内12市中12位、ダントツで最下位です。

【A】この深刻な状況についての市長のお考えを伺います。

【A】令和2年度末の地方債現在高の推計は292億7,635万円、前年度比較では微増となりますが、大型の施設整備が完了し、借入額も大幅に減少しておりますので、今後は徐々に減少するものと考えています。

【Q】令和3年度までに中央公民館を廃止、除却、機能分散する。この決定にはもう議論の余地はなく、決して覆ることのない決定なのでしょう。

【A】1月17日に開催された沼田市

ファシリティマネジメント推進会議において、「沼田市公共施設等総合管理計画第1期アクションプラン」を更新し、中央公民館の廃止、除却、機能分散について決定しました。

機能分散については、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するよう、調整を行っております。

【Q】生涯学習の推進について教育長に伺います。

【A】持続可能な生涯学習の場の提供を図るため、社会教育団体等を始め皆様のご意見を伺い、中央公民館の機能移転について、ご理解とご協力をいただけるよう検討していきたいと考えています。



中央公民館

【Q】昭和の合併後、65年を経過した今日においても旧4村に地区財産管理会が財産の管理をしていると思われるが、旧4村地区の財産管理会の財産と振興協議会のあり方について伺います。

【A】昭和の合併における旧4村に関する財産は、財産の取得、管理及び処分に関する条例の特例条

例において規定されています。合併協定事項として定める基本財産について、各地区財産管理会に財産の維持管理及び処分を委託し、その財産に関する経費は財産管理会の区域内住民の負担とされており、現在もこの条例に基づき処理されています。

また、各振興協議会は、昭和の合併後もなく旧4村の地域ごとに組織され、それぞれが独立した団体として、地域内住民の福祉向上のため、様々な活動を行っている」と認識しています。

【Q】白沢・利根地区の平成合併時における財産について伺います。

【A】平成16年8月に策定した新市

建設計画において「公共施設の適正配置と整備については、市民生活に急激な変化を及ぼさないよう十分配慮し、地域の特性やバランス、現行公共施設の有効利用等総合的に勘案し、さらには行財政運営の効率化を考慮しながら逐次検討、整備を行っていきます」と規定しており、旧白沢村及び旧利根村から沼田市が引き継いだ財産も、市民共有の財産として、引き続き適正な管理運営に努めたいと考えています。

※その他の質問

・企業誘致の取り組みについて
・観光施策について



合併協定調印式 (平成16年8月)

市政を問う!!

一般質問

「持続可能な地域」を目指して

星野 稔



Q 歴代市長の政策には、地域の持続可能性向上という共通点がありますが、「100年のまちづくり」という視点に立ったまちづくりについて考えを伺います。

A 第六次総合計画においても、「沼田市民憲章」と「森林文化都市宣言」の基本理念を継承し、「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち 沼田」をまちづくりの将来像として、一人一人が輝くまちづくりを進めています。今後は、市民の皆さんと行政との協働による施策をさらに推進し、持続可能な市政運営に努め、将来にわたって、「住みたい」、「住み続けたい」と思えるまちづくりを推進したいと考えています。

Q 市内各地域の活力低下と本市の将来を見据えたとき、行政と市民による協働のまちづくりには、地域自治区・地域協議会制度の導入が必要と考えます。制度導入の考えを伺います。

A 少子高齢化などの影響によ

り、一部の行政区では、地域で行ってきた共同作業などのまちづくり活動を住民だけで行うことが困難な状況となっております。そのため、現在の行政区より大きな枠組みによる、まちづくり組織の設置について、研究・検討しているところです。

Q 地域拠点としての利根支所庁舎の活用及び千歳橋の架け替えについて伺います。

A 利根支所については、公共施設等総合管理計画の「除却または使用中止、更新（規模縮小）」との検討方針に基づいて、今後のあり方を検討していきたいと考えています。

千歳橋の架け替えについては、高度な技術力や多額の費用が必要なため、国土交通省に修繕代行等を要望しており、その結果をもとに検討していきたいと考えています。



行政と地域の協働のまちづくりに向けて

井上 弘



Q 市民を主体とした協働のまちづくりは、今後の持続可能なまちづくりの中で欠かすことができませぬ。市でも、NPOやボランティア団体を中心とした協働事業を進めています。企業や教育機関、地縁組織など、様々な団体との協働が重要になってきます。そのなかでも特に地縁組織などを軸とする地域との協働が重要と考えますが、行政と地域との協働についてどのような考えか伺います。

A 地域が主体となって組織を形成し、自らが担い手となり、課題解決に向けて積極的に取り組んでいる事例もあります。このような地域住民の方々が知恵や力を持ち寄って課題を解決していく協働の仕組みは、重要であり、地域の主体性や特色を生かしたまちづくりを支援していきたいと考えています。

Q 地域自治、協働を推進していくためには、地域全体のことをよく知り、その地域のことを主

体的に考える地域自治組織が必要で。行政と市民の協働のまちづくりを推進するために、地域の意見をまとめ、代表する組織の必要性についてどうお考えか伺います。

A 今後も新たな行政需要に対応し、安定した行政サービスを提供していくためには、自助・共助・公助を基本とした、市民の皆さんと行政との共創・協働による施策を推進していく必要があります。地域の皆さんの意見をまとめ、地域での助け合いや支え合いの取り組みを推進するための組織は、今後、一層重要になってくると考えています。



市民協働によるまちづくり事業補助金事業報告会

市政を問う!!

「奈良古墳群」群馬県史跡に指定される

星野 妙子



感染症の影響から市民生活と市内企業を守れ

井之川 博幸



Q大規模災害発生時、外部からの支援受け入れ手順を定めた「受援計画」について伺います。

A国・県・他自治体との具體的受け入れ手順の対応等、現在、地域防災計画を見直しています。

Q群馬県史跡に指定された「奈良古墳群」への沼田市の対応と活用について教育長に伺います。

A県史跡へ2月に指定され、県の指導の下、古墳の保存管理と周辺整備に努め、学校教育での学習や沼田市歴史資料館での展示や解説、地元の要望をこまめ歴史資源としての活用を検討していきたいと考えてます。

Q国の方針により、7月1日から有料化となるレジ袋の対応と周知について伺います。

A市民団体等の協力を得て「マイバックキャンペーン」を実施してきました。市はレジ袋価格設定に関与することは考えていませんが、商工会議所等と連携し市民へ周知を図っていききたいと考えています。



池田地区住民による古墳整備

Q利根町の小水力発電施設整備工事の今後の展望、地元との合意形成について伺います。

A追貝平土地改良区の用水施設を活用し、令和2年度に工事を発注、令和5年度の発電・売電を目指します。土地改良区・地元の方へ説明し、ご理解ご協力をお願いしていきたいと考えてます。

Q消費税増税の市民生活及び市内経済に対する影響について伺います。

A少なからず影響があるものと考えています。

Q日本経済を急速に悪化させてきた消費税を5%に引き下げることに対する見解は。

A国で様々な対策を行っており、それらの動向を注視し、現行制度の下で適切な市政運営に努めていきたいと考えています。

Q新型コロナウイルス感染症の拡大で市内観光業界への影響について伺います。

A観光業において20%から45%のキャンセルが出ている事業所もあり、迅速で正確な情報提供及び感染の拡大防止に努めたいと考えています。

Q観光業界が参加する対策協議会を行う必要があるのでは。

A必要に応じて設置も検討していきたいと考えています。

Q中国企業などと取引がある市内企業の情報は把握しているか。

A中国からの輸入商品を扱う販売業者やインバウンドを主とする団体旅行の受け入れを扱う観光業者に影響が出ており、今後さらに影響が出ると思われます。



感染症の影響で観光客激減の市内温泉地

Q市内企業を守るために最大限の対策を想定していくことが必要ではないか。

A県は特別相談窓口を設置し、本市も地域経済への影響を最小限に食い止められるよう、対応を検討したいと考えています。

Q市営住宅入居の「連帯保証人制度」の廃止について伺います。

A今後も連帯保証人を求めています。保証債務の極度額を低めに設定し、一定の条件では、連帯保証人を免除するなどの対応を考えています。

議会改革 経過報告

沼田市議会では、議会改革特別委員会を設置し、議会改革の検討、取り組みを進めています。現在までの経過の概要を掲載します。

議会改革特別委員会

重要事項3点から

議会改革をスタート

議会改革特別委員会は、昨年5月に各会派、会派外議員の10人で設置され、「議員定数及び非常任委員・委員会数の適正化」

「議会報告会、意見交換会等の広報広聴活動」「常任委員会・委員協議会のあり方及び発言制限」の3点について協議を進めています。

議員定数及び非常任委員・委員会数の適正化

3常任委員会を維持し、議員定数を現行の20人、委員の定数も現行と同じくする意見と、議員定数を18人にし、常任委員会に議長を含めるとする意見、常任委員会に議長を含めないとする意見が出され議論を重ねています。

議会報告会、意見交換会等の広

報広聴活動

議会報告会や市民や各団体との意見交換会を実施することで各委員の意見が一致し、実施時期や方法について今後協議を進める予定です。

常任委員会・委員協議会のあり方及び発言制限

委員協議会は継続し、常任委員会を活発に開催するという意見や、委員協議会を廃止し、常任委員会を月1回の定例とするという意見が出され協議が続いています。

一般質問や予算・決算審査特別委員会での質問等の制限については撤廃する方向で協議しています。

先進地視察と研修会を実施 市民のための改革を

議会改革特別委員会では、議会改革の取り組みが進んでいる桐生市議会を昨年11月に視察し、議会報告会や意見交換会、議会

モニター制度などの取り組みを調査しました。

2月3日には、山梨学院大学の江藤俊昭教授を講師に「地方議会の目指すべき姿―『住民自治の根幹』としての議会の作動―」と題した講演会を開き、住民に公開された議会改革の進め方や議員の役割、定数などについて研修を行いました。

議会改革特別委員会では、これからも市民皆さまに開かれた議会を目指し、議会改革について議論と実践に取り組みます。



江藤教授を招いた議会改革研修会

次回定例会の日程

次回定例会は、6月9日（火）からの予定です。
インターネット中継も行っています。



編集後記

新型コロナウイルス感染症について、この記事を執筆している現在も、国や県、本市で感染拡大防止に向けた努力がされています。議員一同は、市民皆様の生活と市経済に大きな影響を与えているこの危機を乗り切るため、市当局と連携し、その方策を議論しています。市民皆様にもご協力をお願いし、一丸となった取り組みをお願いします。

さて、3月定例会において令和2年度予算が可決となりました。森林文化都市を宣言している本市では、生まれた子どもにも木製のおもちゃをプレゼントし、木材や森林への愛着を育む「ウッドスタート事業」を新たに開始します。おもちゃを手にする子どもたちが、この郷土で大きく育ち、活躍してくれることを期待し、笑顔で過ごせる沼田市を目指して、議会だよりの広報にも取り組んでまいります。

編集委員 戸部 博

議会だより編集委員会

委員長 井上 弘
副委員長 星野 妙子

委員 高柳 勝巳 永井 敏博 高山 敏也
山宮 敏夫 大東 宣之 戸部 博